

ニュース

第24回ミツバチ科学研究会開催

恒例のミツバチ科学研究会が1月13日(日)に玉川大学農学部第2校舎502教室で開催された。参加者は学内関係者を含めて220名で盛会であった。発表者は以下の通り。参加記事は次号に掲載の予定。なお講演内容については、22巻4号に高橋・片岡両氏の発表を、本号に松本教授、赤松さんの発表を、次号23巻2号に星野さんの発表をそれぞれ掲載。

「ミツバチの脱糞行動」

赤松えり子(玉川大)

「腐蛆病予防薬の養蜂生産物への移行と残留」

星野夏生(玉川大)

「養蜂巣箱におけるアメリカ腐蛆病菌の放射線殺菌について」

高橋富男(日本照射サービス), 片岡敦子(畜産生物科学安全件研究所)

「社会性昆虫の繁栄の秘密」

松本忠夫(東京大)

ミツバチのビデオ発売

「私たちの健康に役立つミツバチの贈り物」と題した教育ビデオが社会教育映画社によって作製された。ミツバチ科学研究施設も監修に当たり、番組中に松香教授と前日本補完・代替医療学会理事長の上野紘郁博士が出演。ミツバチの生態や各生産物、その利用の方法などが主な内容となっている。

アジア養蜂研究協会で斡旋販売をしているので、購入に関するお問い合わせは下記あてに。

アジア養蜂研究協会(担当榎本ひとみ)

〒194-8610 玉川大学ミツバチ科学研究施設気付 電話(FAXとも)042-739-8685

Email: hitomi@agr.tamagawa.ac.jp

ハチミツ中薬剤残留防止シンポジウム

本号渡辺氏の記事でも紹介されているように、標記のシンポジウムが10月10-11日にドイツのチュレで開催される。主催はアピモンディアの蜂病委員である。内容的には抗生物質(農薬を含む)の分析方法とその規格、残留を防止する薬剤の使用法、抗生物質を用いない腐蛆病予防法などとなっている。5月1日が早期申込み割引の締め切り、6月1日が講演要旨、8月1日が会議録用本論文の締め切りとなっている。詳細はEメールで問い合わせる。

info@bieneninstitut.de

中村助教授が渡米

ミツバチ科学研究施設の中村純助教授が4月1日から1年間、海外研修のためアメリカのコネル大学に滞在する。コネル大学では2000年1月に来日したSeeley教授の下で、プロポリス原料の採集行動に関する研究を行う予定。

編集後記 前号に引き続いて1月の研究会に関する内容を掲載させていただいた(次号にも一編掲載)。いずれも養蜂家にとって日常問題であるためかいつもよりも熱心に講演を聴いていただけたように思った。2人の学生発表がいずれも担当の学生で、卒論と同時進行での講演の準備は学生にも面倒を見る側にも大きな負担であったが、参加者からの評判はよく、苦勞のしがいがあった。

鎌倉氏のロイヤラクチンはローヤルゼリーの品質規格としても利用可能と思われる内容で、ぜひとも多くの方に読んでいただきたい。今後このような物質がさら見つかれば、その機能性や品質との関係が明らかになることを望みたい。昨今のニュースによって一般には食品業界への不信任感が芽生えつつある。「養蜂生産物は安心」ということにも確からしさが求められる時代になってくるだろう。

末筆ながら、上記のように1年間不在となる。読者の方にも留守中何かと不便をおかけすると思うが、なにとぞご了承いただきたい。(純)